



# 嵐の前後



rocksan

嵐が来る前は何故だが心が騒ぐ  
誰もが慌てて家に帰る中  
僕は一人逆風に向かうのだ

強い風が吹く  
沢山のものを巻き込んで  
いらなくなったものから吐き出していく  
おかげ地上にはゴミばかりが残される

でも天上はそうじゃない  
素晴らしいものは全て空に上げられるのだ  
確かに地上にあったはずのものがなくなるのは  
きっと空が気に入ったから持ち帰ってしまったのだ  
そこはここにはない宝の山が築かれているはず  
過去から現在そして未来にかけての宝の山が

僕はそんな夢を描いて嵐に向かって歩き出す  
けどどいつも途中で引き返す羽目になるのだ  
君が危ないからと僕の手を掴むから  
君は僕がいなくなると直ぐに泣いてしまうから  
君の泣き顔は僕の心をこの嵐のように曇らせる  
お陰で今日も僕は家の中で  
嵐が通り過ぎるの眺めてる  
君が入れたお茶を飲みながら